撮影　フラッシュ

この章では、フラッシュモードの設定やフラッシュの発光量の補正、外部フラッシュを使った撮影について説明します。
（フラッシュの基本的な使いかた→P.44）

フラッシュモードを選ぶ ϟ

P A S M

フラッシュモードを選ぶことで、いろいろなフラッシュ撮影を行うことができます。

●フラッシュモードの特徴

オート発光
暗いときや逆光のときに、自動的に光量を調節して発光します。
暗いときは、手ぶれを防ぐために、シャッタースピードが約1/30秒(最長)に固定されて、フラッシュが発光します。
逆光のときは、明るさに応じて発光します。

スローシンクロ ϟ SLOW
後幕シンクロ 2nd-CURTAIN
イルミネーションなどの夜景を背景に人物をフラッシュ撮影すると、背景がまっ暗になってしまいます。スローシンクロにすると、シャッタースピードは背景の暗さに対応して2秒まで(ISO80のとき)のびるため、背景も写すことができます。
シャッタースピードが長くなると、手ぶれや被写体ぶれが起きやすくなるので、三脚のご使用をおすすめします。
2nd-CURTAINが表示されていないとき(先幕シンクロ)は、フラッシュはシャッターが開いたときに光ります。2nd-CURTAINが表示されているとき(後幕シンクロ)は、シャッターが閉じる直前に光ります。
夜間の走っている車はスローシンクロ(後幕シンクロ)で撮ると、最初(シャッターが開いたとき)に車のライトが写り、最後(シャッターが閉じる直前)にフラッシュで車が写るので、車の後ろにライトの筋が伸びた自然な画像になります。
Sモードにしてシャッタースピードを遅くすると、効果がはっきりと出ます。

後幕シンクロで撮ると、車のライトの筋が後ろに伸びる

強制発光 ϟ

明るさにかかわらず、必ずフラッシュが光ります。逆光で顔が暗く写ってしまうときや木陰などで顔にかかった影を柔らげるときや、蛍光灯などの人工照明の色づきを押さえるときなどに使います。

被写体が非常に明るい場合は、フラッシュの効果が現れにくくなります。露出補正をするか、適正露出で写したい部分をスポット測光(→P.78)で測光しなおして撮影してください。

赤目軽減発光 👁

目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくするため、フラッシュが光る前に10数回の予備発光を行います。実際に撮影されるのはシャッターボタンを全押ししてから約1秒後なので、撮影が終わるまでカメラをしっかりと構えていてください。

次のようなときは、赤目軽減の効果が現れにくくなります。また、個人差もあります。

- フラッシュを正面から見ていないとき
- 予備発光を見ていないとき
- 被写体とカメラが離れているとき

目が赤く写っている例

ϟ(フラッシュモードボタン)を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを右に回すと、コントロールパネルの表示が下表の矢印の順に変わります。(左に回すと逆の順に変わります)

P(プログラムモード)、A(絞り優先モード)のときに選べるフラッシュモード

コントロールパネルの表示	フラッシュモード	赤目軽減	発光のタイミング	暗いとき・逆光のとき自動発光	どんなときでも発光
(表示なし)	オート発光	—	先幕シンクロ	○	—
👁	オート発光(赤目軽減)	○	先幕シンクロ	○	—
👁 ϟ SLOW	スローシンクロ(赤目軽減)	○	先幕シンクロ	○	—
ϟ SLOW	スローシンクロ	—	先幕シンクロ	○	—
ϟ SLOW 2nd-CURTAIN	スローシンクロ(後幕シンクロ)	—	後幕シンクロ	○	—
ϟ	強制発光	—	先幕シンクロ	—	○

S(シャッタースピード優先モード)、M(マニュアルモード)のときに選べるフラッシュモード

コントロールパネルの表示	フラッシュモード	赤目軽減	発光のタイミング	暗いとき・逆光のとき自動発光	どんなときでも発光
👁 ϟ	強制発光(赤目軽減)	○	先幕シンクロ	—	○
ϟ 2nd-CURTAIN	強制発光(後幕シンクロ)	—	後幕シンクロ	—	○
ϟ	強制発光	—	先幕シンクロ	—	○

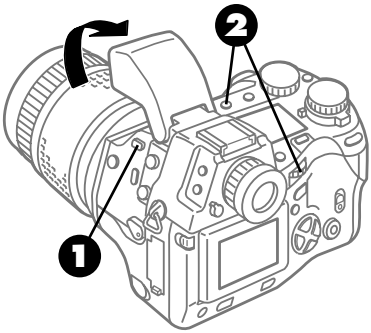
注意

P、Aのときのフラッシュモード		S、Mのときのフラッシュモード
オート発光	→	強制発光
スローシンクロ	→	強制発光
スローシンクロ(後幕シンクロ)	→	強制発光(後幕シンクロ)
オート発光(赤目軽減)	→	強制発光(赤目軽減)
スローシンクロ(赤目軽減)	→	強制発光(赤目軽減)
強制発光	→	強制発光

P、Aのときに設定したフラッシュモードは、撮影モードをS、Mに変えると自動的に上のように変わります。

S、Mのときのフラッシュモード		P、Aのときのフラッシュモード
強制発光	→	強制発光
強制発光(後幕シンクロ)	→	スローシンクロ(後幕シンクロ)
強制発光(赤目軽減)	→	オート発光(赤目軽減)

S、Mのときに設定したフラッシュモードは、撮影モードをP、Aに変えると自動的に上のように変わります。



1 **(フラッシュボタン)を押します。**
フラッシュがポップアップします。
(フラッシュが起きていないときは、フラッシュモードを変更できません)

2 **(フラッシュモードボタン)を押したまま、メインダイヤルかサブダイヤルを回し、設定したいフラッシュモードをコントロールパネルに表示させます。**

3 **撮影します。**

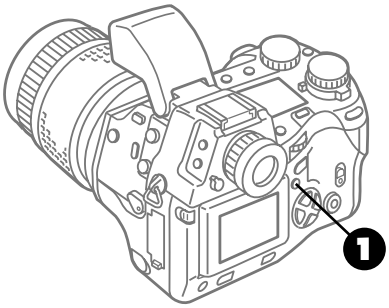
フラッシュを使わないとき

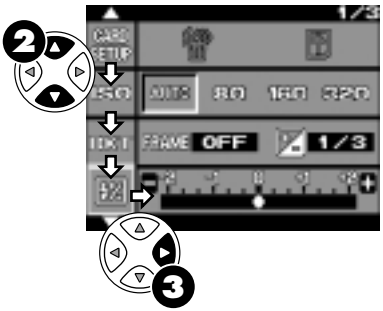
夕焼けや夜景など、フラッシュが届かないものを撮るときや、美術館などフラッシュを使えないときは、フラッシュを閉じて撮影してください。外部フラッシュを接続しているときは、外部フラッシュの電源を切るか、接続をはずしてください。外部フラッシュによっては、外部フラッシュの電源を切っても、撮影時に光るものがあるのでご注意ください。

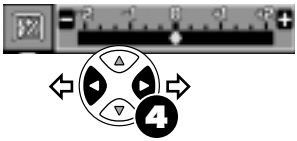
フラッシュの発光量を補正する

P A S M

フラッシュの発光量は、被写体の明るさや反射率・距離などに応じてカメラ側で自動的に決めます。そのため被写体によっては明るすぎる画像になったり、暗すぎる画像になったりします。フラッシュの発光量を補正することで、これらを防ぐことができます。シャッタースピードが速いときは、補正の効果があまり出ないことがあります。





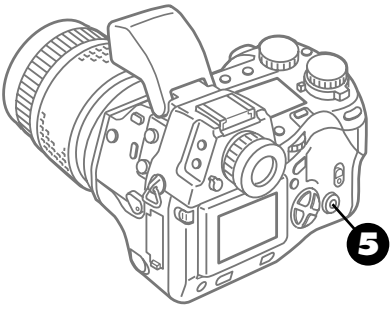


1 **(メニューボタン)を押します。**
液晶モニタにメニューが表示されます。

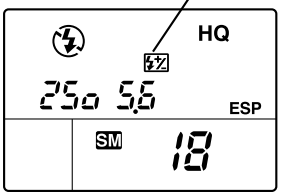
2 **十字ボタンの▽または△を押し、緑の選択枠を に移動します。**

3 **十字ボタンの▷を押して、緑の選択枠を の右の目盛りに移動します。**

4 **発光量を増やしたいときは十字ボタンの▷を、減らしたいときは十字ボタンの◁を押します。**
1回押すたびに1/3EV刻みで補正値が変わります。－2EV～＋2EVの範囲の値を選べます。



補正値を0以外にすると表示されます



コントロールパネル

5 **(OK)ボタンを押します。**

補正値が設定され、緑の選択枠が に移動します。

補正値を0以外にすると、コントロールパネルに が表示されます。

(この設定は、電源を切っても保持されますのでご注意ください。補正を解除する場合は補正値を0に戻します)

もう一度(OK)ボタンを押すとメニューが消えます。

6 **撮影します。**

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用するとき

カメラに取り付けた専用外部フラッシュは自動的に「TTL-AUTO」に設定され、内蔵フラッシュと同じように発光量が補正されます。

専用外部フラッシュを「MANUAL」に切り替えると、専用外部フラッシュの発光量のみ補正されなくなります。(内蔵フラッシュは補正されます)

専用外部フラッシュFL-40(別売)を使って撮影する

P A S M

専用外部フラッシュFL-40は、発光量が大きく、内蔵フラッシュでは光が届かないような遠くの被写体を照らすことができます。また、照射方向も変えられるので、バウンス撮影など多彩なフラッシュ撮影ができます。
専用外部フラッシュは、カメラ上部のホットシューに取り付けて使うか、フラッシュブラケット(別売)と組み合わせて使います。
フラッシュの発光量補正や発光モードは内蔵フラッシュと同じ操作で選ぶことができます。(→P.90)

●専用外部フラッシュだけを使う

内蔵フラッシュが起きている場合は、閉じます。

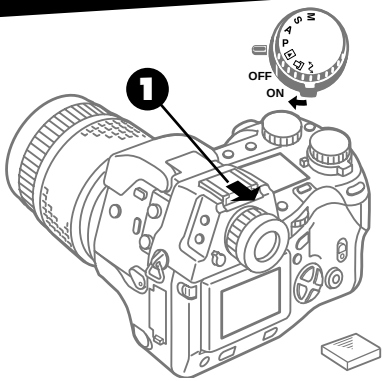
●内蔵フラッシュと専用外部フラッシュを併用する

専用外部フラッシュをバウンスさせ、内蔵フラッシュで人物の目に光を入れたり(キャッチライト効果)することができます。
併用時の内蔵フラッシュは、専用外部フラッシュ発光量に対して約半分の割合の補助光源として発光します。バウンス撮影で外部フラッシュの光を反射させて使うと、外部フラッシュの光量が不足して、フラッシュ撮影による撮影可能範囲内でも露出が不足することがあります。

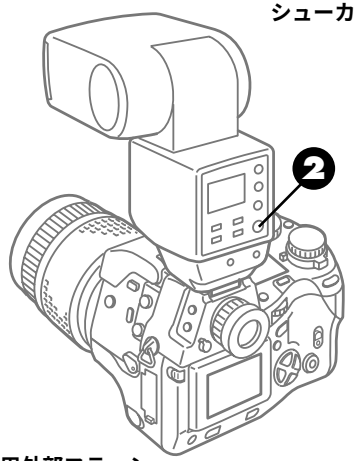
専用外部フラッシュのモード設定

専用外部フラッシュを取り付けると、専用外部フラッシュは自動的に「TTL-AUTO」に設定され、発光量はカメラによって自動的に調節されます。
カメラのモードダイヤルを**M**(マニュアルモード)にすると専用外部フラッシュの設定をMANUALに切替えることができます。専用外部フラッシュでガイドナンバーを設定して、カメラ側で絞り値を設定して撮影することもできます。

このカメラの撮影モード	専用外部フラッシュのモード
P	TTL-AUTOのみ
A	
S	
M	TTL-AUTO MANUAL



シューカバー



専用外部フラッシュ
FL-40の背面

MODEボタン

1 シューカバーをはずして、専用外部フラッシュFL-40を取り付けます。

シューカバーはカメラの背面に向けてスライドさせてはずします。専用外部フラッシュの取り付けかたは、専用外部フラッシュFL-40の取扱説明書をご覧ください。

シューカバーはなくさないように保管し、専用外部フラッシュを取り外したあとは、もう一度取り付けてください。

カメラや専用外部フラッシュの電源が入った状態で取り付けると、専用外部フラッシュが誤って発光することがあります。

2 専用外部フラッシュの電源を入れます。

内蔵フラッシュも併用するときは、⚡(フラッシュボタン)を押してフラッシュを起こします。使わないときは、内蔵フラッシュを閉じます。

3 カメラのフラッシュモード(→P.86)を選びます。

4 撮影します。

近くの被写体を撮るとき

1.5m以内の被写体を撮るときは、明るくなりすぎたり(白飛び)部分的に影になる(けられ)ことがあります。発光量を補正するか内蔵フラッシュだけで撮ることをおすすめします。

専用外部フラッシュを発光させたくないとき

専用外部フラッシュの電源を切ってください。

市販の外部フラッシュについて

市販の外部フラッシュは、ホットシュー、またはシンクロ接点に接続できるものであれば、使うことができます。（専用外部フラッシュのように、カメラから発光量の調整をすることはできません）
正しい撮影のために、次の事項にご注意ください。

●使用できる市販の外部フラッシュの条件

1. **フラッシュの照射角度はカメラの撮影範囲より広いものをお使いください**
   このカメラの焦点距離は35mmフィルム換算で35mm～140mmです。使用する焦点距離より広い範囲の照射角度が必要になります。
   焦点距離全域で使用できるためには35mm以上をカバーする必要があります。できれば、照射範囲に余裕をもたせるためにフラッシュの照射範囲を広げるワイドアダプタが付属しているものをおすすめします。
2. **フル発光時の発光時間が5msecよりも短いものをお使いください**
   リングフラッシュなど、発光時間が長いものは、発光の途中でシャッターが閉じてしまい、暗く撮影されることがあります。
3. **FL-40以外の通信機能付きフラッシュは使用しないでください**

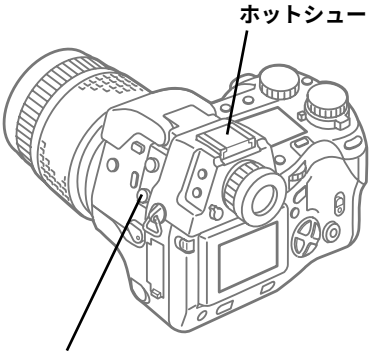
●市販の外部フラッシュでの設定

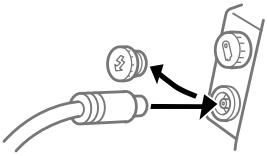
1. **フラッシュオート（外部フラッシュ自身による調光）で使うとき**
   フラッシュオートで使うときは、外部フラッシュのオートF値とISO値をカメラの絞り値とISO値に合わせてください。
   撮影条件によっては適正露出にならないこともあります。このような場合は、カメラの絞り値、もしくはISO値をシフトさせるか、外部フラッシュのオートF値とISO値をシフトするなどして調整してください。（カメラ側のフラッシュ発光量補正は市販の外部フラッシュには無効です）
2. **外部フラッシュでガイドナンバーを指定して使うとき**
   ガイドナンバーと撮影距離とISO値から計算して、カメラの絞り値を設定してください。

FL-40以外の外部フラッシュを使うときの注意点

ϟがついていても、専用以外の外部フラッシュは撮影のたびに必ず発光します。発光させたくないときは、外部フラッシュの電源を切ってください。電源を切っても発光するものは、接続をはずしてください。
外部フラッシュの発光量は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。また、撮影時の状況やフラッシュの種類、カメラの設定などによって撮影結果が異なります。専用以外の外部フラッシュを用いて撮影した画像については、保証できませんのでご了承ください。

●市販の外部フラッシュを使う





❶ 外部フラッシュをホットシューに取り付けるか、または、カメラのシンクロ接点でカメラと接続します。

❷ カメラのモードダイヤルをM（マニュアルモード）に合わせます。
シャッタースピードと絞り値を設定します。シャッタースピードを遅くするとぶれて撮影されることがあります。

❸ 市販の外部フラッシュをオートモードに設定し、カメラで設定した絞り値とISO感度に合わせます。
撮影条件によっては、適正露出にならないことがあります。フラッシュ側の絞り値またはISO値を変えて試してください。（カメラ側のフラッシュ発光量補正は無効です）